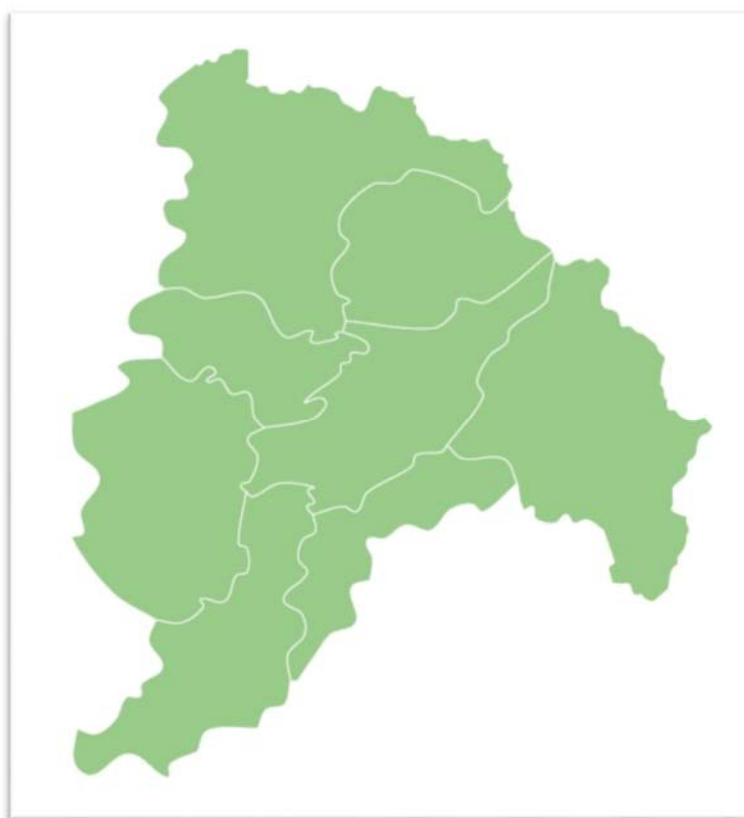


平成 30 年度
基盤共通教育集中講義



共生の森もがみ プログラム案内

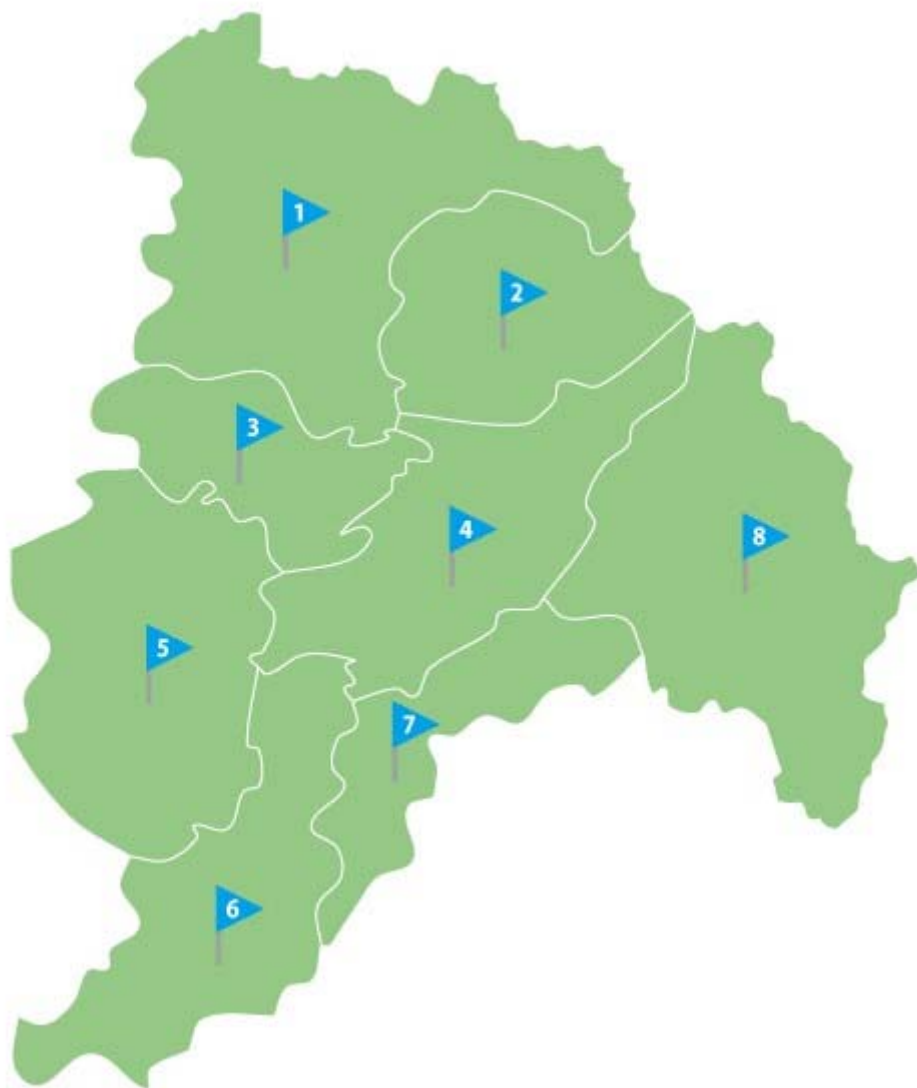


Q 最上広域圏 8 市町村の場所と名前を当ててみよう
→ 答えは表紙の裏へ！

エリアキャンパスもがみマスコット ヤム君



最上広域圏の場所と名前みんな覚えてね！！



1. 真室川町
2. 金山町
3. 鮭川村
4. 新庄市
5. 戸沢村
6. 大蔵村
7. 舟形町
8. 最上町

目 次

◇授業計画（シラバス）	2
-------------	---

◇前期

①「新庄まつりとオレ」～日本一の山車行列～	4
②「作陶に挑戦！」新庄東山焼の世界	
③地域の資源を活かし山屋の魅力を探る	5
④マルシェ“本活プロジェクト”～本と人をつなげる出前図書館～	
⑤山間地の宝物を探そう	6
⑥森と人との共存を考えるⅠ～山間地の歴史を探り地域振興へ～	
⑦最上町の人・自然・文化に触れよう①	7
⑧里地里山の再生Ⅰ	
⑨田舎体験で考える～豊かな暮らしをつくる生き方働き方～	8
⑩子どもの自然体験活動支援講座1	
⑪大蔵村の生活と伝統の継承	9
⑫鮭川の歴史・文化探訪	
⑬戸沢村の超元気印！幸齢者集団の生き様に学ぶ	10
⑭里山保全と山菜料理	
⑮創作太鼓と伝承野菜栽培	11

◇後期

①七所明神伝説を次世代に伝える方策を探る	12
②新庄伝統の民俗文化を体験しよう～隠明寺風と昔語り～	
③新庄市の市報を創ってみよう！！	13
④山里の秋を体感しよう	
⑤森と人との共存を考えるⅡ～山間地の文化を探り地域振興へ～	14
⑥最上町の人・自然・文化に触れよう②	
⑦里地里山の再生Ⅱ	15
⑧子どもの自然体験支援講座2	
⑨里山保全とキノコ料理	16
⑩創作太鼓と里山ぐらし体験	

授 業 計 画 (シ ラ バ ス)

■授業科目名： 前期・・・フィールドワーク共生の森もがみ
後期・・・フィールドラーニング共生の森もがみ
■担当教員：小田隆治 ■担当教員の所属：教育開発連携支援センター
■開講学年：1年、2年、3年、4年 ■開講時期：前期、後期 ■単位数：2単位 ■開講形態：講義

～・・・授業概要～・・・

◎テーマ

自然豊かな最上広域圏でのフィールドワークを通して、地域、文化、歴史、過疎化、少子高齢化等の現代日本が直面する諸問題を地域の人たちと一緒に考えます。この科目は、最上広域圏の8市町村そのものをキャンパスとして活動を展開する授業科目として創出されました。この地域を舞台に、「達人講師」の指導の下、8市町村選りすぐりのプログラムが展開されます。もがみを知ることは、山形を知り、日本を知り、ひいては世界を知ることにつながっていきます。山形大学に来て良かったと思える授業です。

◎到達目標

課題発見力、課題探求力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力、行動力、社会性の基礎的な力を身につけること。

◎キーワード

山形、エリアキャンパスもがみ、地域社会、プレゼンテーションスキル、学生主体型授業（アクティブラーニング）

～・・・授業計画～・・・

◎授業の方法

この授業は、各自が以下のプログラムから1つを選択して受講します。各プログラムは、オリエンテーションから始まり、事前学習→1泊2日フィールドワーク→記録ノート提出→中間学習→1泊2日フィールドワーク→記録ノート提出→最終レポート→活動報告会という流れで行います。

前期

プログラムテーマ	開催地	1回目	2回目
「新庄まつりとオレ」～日本一の山車行列～	新庄市	6月23・24日	7月7・8日
「作陶に挑戦！」新庄東山焼の世界	新庄市	5月26・27日	6月23・24日
地域の資源を活かし山屋の魅力を探る	新庄市	6月2・3日	6月30日、7月1日
マルシェ“本活プロジェクト” ～本と人をつなげる出前図書館～	新庄市	5月19・20日	6月16・17日
山間地の宝物を探そう	金山町	6月9・10日	7月7・8日
森と人との共存を考えるⅠ ～山間地の歴史を探り地域振興へ～	金山町	5月12・13日	6月9・10日
最上町の人・自然・文化に触れよう①	最上町	5月19・20日	6月16・17日
里地里山の再生Ⅰ	舟形町	5月26・27日	6月9・10日
田舎体験で考える ～豊かな暮らしをつくる生き方働き方～	真室川町	6月2・3日	7月7・8日
子どもの自然体験活動支援講座Ⅰ	真室川町	6月9・10日	7月7・8日
大蔵村の生活と伝統の継承	大蔵村	5月26・27日	6月2・3日
鮭川の歴史・文化探訪	鮭川村	6月9・10日	6月16・17日
戸沢村の超元気印！ 幸齢者集団の生き様に学ぶ	戸沢村	5月26・27日	6月23・24日
里山保全と山菜料理	戸沢村	5月19・20日	6月23・24日
創作太鼓と伝承野菜栽培	戸沢村	6月9・10日	7月7・8日

後期

プログラムテーマ	開催地	1回目	2回目
七所明神伝説を次世代に伝える方策を探る	新庄市	10月27・28日	1月12・13日
新庄伝統の民俗文化を体験しよう ～隠明寺風と昔語り～	新庄市	11月10・11日	11月17・18日
新庄市の市報を創ってみよう！！	新庄市	11月10・11日	12月8・9日
山里の秋を体感しよう	金山町	10月27・28日	12月8・9日
森と人との共存を考えるⅡ ～山間地の文化を探り地域振興へ～	金山町	12月8・9日	1月12・13日
最上町の人・自然・文化に触れよう②	最上町	10月27・28日	11月24・25日
里地里山の再生Ⅱ	舟形町	10月27・28日	11月17・18日
子どもの自然体験支援講座Ⅱ	真室川町	12月8・9日	1月19・20日
里山保全とキノコ料理	戸沢村	10月27・28日	11月17・18日
創作太鼓と里山ぐらし体験	戸沢村	12月8・9日	1月12・13日

新庄市

前期① 「新庄まつりとオレ」～日本一の山車行列～



【目的・概要】

「新庄まつり」は、毎年8月24日から26日まで3日間にわたって開催され、50万人の人出でにぎわう東北有数の祭りとして、また、東北の夏祭りを締めくくるにふさわしい伝統の祭りとして、脚光を浴びています。平成21年には、国の重要無形民俗文化財に指定され、平成28年には、ユネスコ無形文化遺産に全国33の「山・鉾・屋台」の1つとして登録され、さらに認知度は上昇しています。

そんな新庄まつりをさらに活性化し、「新庄まつりファン」を増やすために、大学生自身ができる企画を考察し、新庄まつり関係団体にプレゼンテーションを行ってもらいます。

【授業計画】

訪問1回目 平成30年6月23日、24日

- 1日目 ・オリエンテーション
・新庄まつりを知る
- 2日目 ・新庄まつりの企画立案

訪問2回目 平成30年7月7日、8日

- 1日目 ・新庄まつりの企画立案
・提案の場所の準備
- 2日目 ・新庄まつり関係者へ企画の提案発表
・振り返り

【講師】

新庄まつりサポーター S

【担当】

新庄市教育委員会社会教育課

【受講定員】

12名

【費用の目安】

訪問1回目 2,000円程度＋食事代実費別途

訪問2回目 2,000円程度＋食事代実費別途

⚠ 昨年度実施された同様のプログラム受講にかかった費用を参考にしています。
今年度の費用は、この金額から変わる可能性があります。

昨年度受講生の感想 人文社会科学部 Sさん

インターネットで検索をかけても調べることができた新庄まつりは、実際に現地に訪れて話を聞くととても深いものだった。260年もの歴史を持ち、使用されている人形や山車にも伝統がある。祭りに参加するすべての人が祭りに対して熱い思いを持ち、楽しんでいる新庄市がとても素敵な場所だと感じた。昨年ユネスコ無形文化遺産に登録され、今年は観光客の増加が見込まれる中で、マンパワーの問題や新庄まつりの後継者不足など、新庄市が抱えている問題は多くある。そんな中で私たち学生ができることは何かあるのか考えて開催されたタウンミーティングは、今回のプログラムの中でも一番印象に残っている。

前期② 「作陶に挑戦！」新庄東山焼の世界



【目的・概要】

1842年の開窯以来、5代にわたり受け継がれてきた新庄東山焼の伝統と芸術性あふれる焼き物の魅力を体験することができる。東山焼ならではの土や釉薬作り、焼き方等を6代目が分かりやすく解説する。ろくろ回し体験や自分の作った作品を記念に残すことができるのも本プログラムの魅力の一つである。

【授業計画】

訪問1回目 平成30年5月26日、27日

- 1日目
 - ・講義 焼き物の歴史
 - ・山から粘土取り
 - ・巧みの実演：ろくろ回し→体験
- 2日目
 - ・各地の有名な焼き物比較
 - ・皿づくり実習
 - ・ろくろ回し体験②

訪問2回目 平成30年6月23日、24日

- 1日目
 - ・講義 釉薬の歴史
 - ・釉薬調合体験
 - ・釉薬を焼き物につける体験
- 2回目
 - ・本焼き作業：窯つめ&窯焚き
 - ・活動総括

【講師】

新庄東山焼弥瓶窯 涌井 正和

【担当】

新庄市教育委員会社会教育課

【受講定員】

12名

【費用の目安】

訪問1回目 3,500円程度＋食事代実費別途

訪問2回目 2,000円程度＋食事代実費別途



※昨年度実施された同様のプログラム受講にかかった費用を参考にしています。

今年度の費用は、この金額から変わる可能性があります。

昨年度受講生の感想 地域教育文化学部 Oさん

講師である涌井正和さんからは、諦めずに挑戦することの大事さを学んだ。新庄東山焼は、一般的な食器だけでなく、土管の製作や農業・工業に使用する建設用タイル、現在では水質を浄化するレンガの研究製作など、様々な注文を受け入れてきた。時代に合った社会のニーズにこたえるために諦めず挑戦することで歴史を築いてきたのである。また、涌井さん自身、若いころはサラリーマンをしていて、東山焼を継ぐなど思ってもみなかったという。涌井さんのお話を聴いて、最初から「できない」と決めつけず行動することで道は開けるのだと大きな勇氣と希望をもらった。この経験は、大学に入って半年になる今、残りの大学生活で何ができるのか、自分かやりたいことは何か、目標に向かって努力し挑戦しているかなど自分を見つめ直すきっかけになった。残りの大学生活で悔いを残さないよう、やってみたいと思ったことは積極的にチャレンジし、努力していこうと思う。

新庄市

前期③ 地域の資源を活かし山屋の魅力を探る



【目的・概要】

山屋地区を舞台に、山に入っての山菜収穫・山屋セミナーハウス（休山屋小学校を活用した宿泊施設）の一部の壁を塗り直しするための清掃&デザイン考察を行います。そして、実際に考えたデザインを地元の人たちへプレゼンし、実際に自分たちの考えたデザインを描きます。これらの様々な体験や山屋地区の方々との交流しながら、地域資源を活かした山屋地区の活性化を探ってもらいます。

【授業計画】

訪問1回目 平成30年6月2日、3日

- 1日目 ・山屋地区の紹介
・山菜収穫
- 2日目 ・山屋セミナーハウスでの環境整備ワークショップ
→壁や扉の掃除&白塗り、白塗り後のイラストを考察
・地元の子もたちと交流

訪問2回目 平成30年6月30日、7月1日

- 1日目 ・山屋セミナーハウスでの環境整備ワークショップ
→考えたデザインと塗り方を地元講師へ発表、
考えたデザインを壁に描く
- 2日目 ・地元の人たちと「山屋活性化」を考えるワークショップ
・振り返り&交流会

【講師】

山屋地区有志の会 会長 押切 明弘

【担当】

新庄市教育委員会社会教育課

【受講定員】

10名

【費用の目安】

訪問1回目 5,000円程度（食事代込み）

訪問2回目 5,000円程度（食事代込み）

❗ 昨年度実施された同様のプログラム受講にかかった費用を参考にしています。
今年度の費用は、この金額から変わる可能性があります。

昨年度受講生の感想 医学部 Aさん

私はこの4日間のフィールドワークを通して普段味わうことのできない様々な新しい体験をして多くのことを学びました。中でも思い出に残ったものは初日の山菜取りと3日目の芝刈りなどの公園整備です。山菜取りではあいにくの雨の中でしたが、出会ってまもない私たちに長靴を用意していただいたり山の中を歩く中で道端に生えている山菜の名称やその山菜にまつわる話を教えていただいたりして山屋の方の温かさや知識の深さを身をもって知ることができました。公園整備では芝刈り機の使い方からスコップの使い方まで、見たことはあっても使ったことのない道具が軽々と出てきて少し戸惑いました。しかし使い方を一から丁寧に教えていただいたので上手に扱うことができ、山屋の方と協力して作り上げた公園を見た時の感動は今でも忘れることができません。

前期④ マルシェ 本活プロジェクト ～本と人をつなげる出前図書館～



【目的・概要】 毎月第3日曜日は、新庄エコロジーガーデン内で行われる「kitokito マルシェ」(手をかけ育てられた野菜、こだわって作られた食べ物、素敵な雑貨や小物が揃う市場)の日。市立図書館も移動図書館車「かやの木号」に本とお話をのせ、出前図書館として参加しています。市民活動と連携を図りながら、新庄・最上の人々の暮らしに息づいた「kitokito マルシェ」という素敵な空間に出向き、本と人をつなげ、毎回新しいことにチャレンジし、待つだけの図書館から積極的に情報を発信する図書館として活動しています。またカフェに隣接の「kitokito books」にも協力し、本と人をつなげるコミュニティ作り(本活)を行っています。

図書館から飛び出し、青空の下季節を感じながら、お話し会をしたり、ワークショップを行ったり、出店している生産者の方々とのコラボレーションなど、大学生の視点と感性で、「kitokito マルシェ」出前図書館での本活と一緒に企画運営してみませんか！

【授業計画】

訪問1回目 平成30年5月19日、5月20日

- 1日目
 - ・図書館オリエンテーション
 - ・「kitokito マルシェ」会場視察
 - ・読み聞かせ講座、ワークショップ準備など
- 2日目
 - ・「kitokito マルシェ」参加
 - 出前図書館体験、kitokito books サポーター

訪問2回目 平成30年6月16日、6月17日

- 1日目
 - ・読み聞かせ実践
 - ・ワークショップ企画準備
- 2日目
 - ・kitokito マルシェ出前図書館運営
 - 図書館ワークショップ出店、kitokito books サポーター

【講師】

新庄市立図書館 館長 高橋 一枝

図書館ボランティアサークル かやのみ会 代表 須藤 敏枝

【担当】

新庄市教育委員会社会教育課

【受講定員】

10名

【費用の目安】

訪問1回目 3,500円程度+食事代実費別途

訪問2回目 2,000円程度+食事代実費別途

❗ 昨年度実施された同様のプログラム受講にかかった費用を参考にしています。
今年度の費用は、この金額から変わる可能性があります。

昨年度受講生の感想 人文社会科学部 Yさん

4日間の中で、多くの地元の人との会話が印象に残っている。ワークショップに参加してくれた子どもの母親は私に「新庄に来てくれてありがとう。また来てほしいね。」と語りかけてくれた。新庄市は、若者の力を求めている。この2回の活動だけでは、残せたものは少ない。活動は継続が大切であると考え、今秋に行われる図書館まつりへの参加と、地元ボランティア団体の方々の活動への協力をしていきたい。班員全員が声を大に言えることは、新庄が大好きになったということだ。今回の活動でのつながりを大切に、今後も大好きな新庄に足を運び続けたい。

前期⑤ 山間地の宝物を探そう



【目的・概要】

目的：山間地の自然の中で、生産や環境保全の体験を通して、生活の原点を考え、今後の生き方を模索する。

概要：畑の体験・山の宝収穫・縄ない・川の生き物調査・ホームステイ・蛍観察・人々との交流

【授業計画】

訪問1回目 平成30年6月9日、10日

- ・農業体験
- ・山菜の学習
- ・川の生き物調査
- ・縄ない
- ・地区民交流
- ・ホームステイ

訪問2回目 平成30年7月7日、8日

- ・収穫体験
- ・笹巻づくり
- ・リース作り
- ・蛍観察
- ・ホームステイ

【講師】

須藤功、石井芳五郎、斎藤正昭、中野光雄、岸末吾、須藤幸一、岸浩樹、岸吉三郎、柿崎喜一、樋口勝也、小野花子、岸ミツ子

【担当】

道草ぶんこう運営委員会、金山町教育委員会

【受講定員】

10名

【費用の目安】

訪問1回目 7,000円程度（食事代含む）

訪問2回目 7,000円程度（食事代含む）

 昨年度実施された同様のプログラム受講にかかった費用を参考にしています。今年度の費用は、この金額から変わる可能性があります。

昨年度受講生の感想 人文社会科学部 1さん

今回のフィールドワークでは、「山間地の宝物を探そう」というテーマで私たちは活動してきたが、金山町の宝物というのはいち地域の方の言う通り「自然」と「人とのつながり」だと強く感じた。地域の方のお話で印象に残ったことは、金山町の将来に不安を抱いていないということだった。金山町でもほかの市町村同様少子高齢化に伴う過疎が進んでいる。しかし、人とのつながりや自然という宝があるからこそ、自分の状況を受け入れここで生きていくという自信につながっているのだと思う。集落のみんなの才能をうまく引き上げてどううまく世代につなげていくかを考えているというお話も聞いた。そんな金山町の現状やありのままを受け入れて生きている地域の方々に感銘を受けた。今回の金山町での体験は貴重な経験になった。

前期⑥ 森と人との共存を考える！～山間地の歴史を探り地域振興へ～



【目的・概要】

遊学の森は、金山町有屋地内であり、森と人との共生をテーマに、地域活用資源の掘り起こしから地域振興へ・生物多様性から地域振興へ・地域の衣食住の伝承から地域振興への3本柱で地域貢献に取り組んでおりますが、地元住民が当たり前という認識であり、地域住民の醸成にうまくつながっておりません。そこで、学生の新鮮な感覚で地域を捉え宝物が集積されれば地域活性化の一助につながると考えております。

そこで、当会では、地域と連携をとりながら、学生の皆さんと交流する機会を設定し、新たな地域文化を創造していきたいと考えていますので、皆さんのお知恵と行動力に期待しています。

【授業計画】

訪問1回目 平成30年5月12日、13日

- ・講話「金山町の自然を知る」
- ・実習 地域探検
- ・実習 食の体験（山菜）

訪問2回目 平成30年6月9日、10日

- ・講話「有屋地域の文化に触れる」
- ・実習 下向まつり
- ・実習 有屋少年番楽伝統芸能に触れる

【講師】

遊学の森案内人会 会長 星川 隆弘

【担当】

遊学の森案内人会

【受講定員】

10名

【費用の目安】

訪問1回目 8,500円程度（食事代含む）

訪問2回目 8,500円程度（食事代含む）



昨年度実施された同様のプログラム受講にかかった費用を参考にしています。
今年度の費用は、この金額から変わる可能性があります。

昨年度受講生の感想 医学部 1さん

金山町は森や川があるだけでなく、牧場やビオトープといった動物と触れ合える場所が存在する上、番楽などの歴史ある伝統文化を伝承している素晴らしい町である。普段生活しているだけではできない経験をたくさんし、久しぶりに好奇心を揺さぶられたり、純粋に自然に対して感動したりして一回り成長できたのではないかなと思う。活動の反省点としては、もっと自発的に行動すべきだった点と直球で地域の人と対話をすればよかったという点が挙げられる。機会があれば今回の活動を踏まえて、大学生としてできることを見つけ、地域活性に貢献できればと思う。

最上町

前期⑦ 最上町の人・自然・文化に触れよう①



【目的】

○北極・南極を世界で初めて単独横断に成功した世界の冒険家、大場満郎氏がコーディネートする町内小学生を対象とした体験活動を通して、地域の方々や小学生との交流により社会性や感受性を高める。
○地域で開催される行事や地域の方々との活動を通して、最上町を知ってもらう。

【概要】

○1 日目は、大場満郎氏がコーディネーターを務める放課後子ども教室にスタッフとして参加し、子どもたちとともに活動する。

○2 日目は、町内のイベントや体験活動などを通して、最上町への理解を深めてもらう。

【授業計画】

訪問1回目 平成30年5月19日、20日

- 1 日目
 - ・放課後子ども教室事業
 - ・ワイルドエドベンチャースクールにスタッフとして参加
 - ・スタッフとの懇談会
- 2 日目
 - ・最上町内でのイベントや体験活動等予定

訪問2回目 平成30年6月16日、17日

- 1 日目
 - ・放課後子ども教室事業
 - ・ワイルドエドベンチャースクールにスタッフとして参加
- 2 日目
 - ・最上町内でのイベントや体験活動等予定。

【講師】

放課後子ども教室事業ワイルドエドベンチャースクール
(コーディネーター大場満郎氏)
その他地域の方々

【担当】

最上町教育委員会教育文化課社会教育係

【受講定員】

10名

【費用の目安】

訪問1 回目 4,500円程度＋食事代実費別途

訪問2 回目 6,000円程度＋食事代実費別途



昨年度実施された同様のプログラム受講にかかった費用を参考にしています。
今年度の費用は、この金額から変わる可能性があります。

昨年度受講生の感想 理学部 Sさん

ワイルドエドベンチャースクールでは、田植え体験、川の散策、鉄工場と自動車整備工場の見学を行なった。炎天下での田植えは労力を使うので、普段何気なく食っている米を作る大変さをよく知ることができた。川の散策ではカエルや魚など川の生物を捕まえ、温暖化により昔と今で生息する生物に違いがあることを教えてもらった。鉄工場では鉄を切断して文鎮を作り、整備工場では整備に関わる器具を見せてもらった。どちらも生活に不可欠な仕事を行う場所だが、子どもたちは学校や自分たちの遊ぶ範囲の中でこれらに直接触れる機会が少ない。ワイルドエドベンチャースクールは地域の中で子どもたちが将来これらの仕事を担う可能性を広げるという点において有意義と思った。



【講師】

会員及び地域住民

【担当】

堀内ファーム事務局 大山 邦博

【受講定員】

10名

【費用の目安】

訪問1回目 7,000円程度（食事代含む）

訪問2回目 7,000円程度（食事代含む）



昨年度実施された同様のプログラム受講にかかった費用を参考にしています。
今年度の費用は、この金額から変わる可能性があります。

【目的・概要】

農村が抱える過疎化対策を地域自らが主体となって取り組む地域活性化策を習得することを目的とする。

荒廃した農地等の再生を共に活動することによって、受講者自らが考案する農村の再生対策を提言としてまとめることを目標とする。

- ・地域学講座（堀内地域の将来ビジョン）
- ・生物多様性の環境保全活動
- ・食と農の体験活動

【授業計画】

訪問1回目 平成30年5月26、27日

- ・手倉森保全活動
- ・野菜の定植活動

訪問2回目 平成30年6月9、10日

- ・手倉森保全活動
- ・野菜の定植体験

昨年度受講生の感想 地域教育文化学部 Sさん

私の実家も兼業農家で中学生くらいまでは手伝っていたが、しばらく農作業に触れる機会がなかったので、農業がどれだけ大変か一部ではあるが改めて知ることができた。今回しただけを収穫させていたのだが、しいたけの原木を設置したのは山大的先輩方だと聞き、このプログラムの歴史を感じ、きちんと次の世代へ引き継がれているのだと思った。舟形を出て行ってしまふ人が多いと聞き、地元の小学生たちにいかに舟形の魅力を伝えていこうか今後の課題だと思った。農家の方々はいつでも外部から新しく農業を始めたいという人は歓迎するとおっしゃっていたので、課題としては農業を始めやすくするために補助金などの援助を手厚くしたり、空き家を提供したりして、外部からの受け入れ体制を確立するべきだと思った。

前期⑨ 田舎体験で考える ～豊かな暮らしをつくる生き方働き方～



【目的】

雪国里山の自然と農業や生活文化を体験したことにより、学んだことや感じたことを基に、若者の視点から地域の農業や交流、定住について考え発表する。その活動を通して、現代における豊かな暮らしをつくる生き方働き方について考察を深める。

【概要】

農業体験を通じて、真室川町の自然を感じながら、町の人々の取り組みや現状を知る。また、農家民宿へ宿泊し、農村の暮らしを体験しながら、地域住民と交流する。これらの活動により、地域の農業や農村での暮らしなどについて理解を深める。

全体の活動を通して、雪国里山の農業を考えるとともに、交流人口の拡大や定住など地域の課題について考え発表する。

【授業計画】

訪問1回目 平成30年6月2、3日

- ・座学（真室川の農業）
- ・里山散策とトロッコ乗車体験

- ・温泉体験
- ・農業体験

訪問2回目 平成30年7月7、8日

- ・郷土料理づくり体験
- ・わら細工や養蜂体験、農産加工品づくり
- ・学生による提言発表

【講師】

農事組合法人ひまわり農場 代表 高橋 清一

【担当】

真室川町教育委員会教育課生涯学習・スポーツ担当

【受講定員】

12名

【費用の目安】

訪問1回目 9,000円程度（食事代含む）

訪問2回目 9,000円程度（食事代含む）



※昨年度実施された同様のプログラム受講にかかった費用を参考にしています。今年度の費用は、この金額から変わる可能性があります。

昨年度受講生の感想 工学部 Kさん

「田舎だから、豊かな暮らしはとれない」なんてことはない。私は、このフィールドワークを通して田舎暮らしの中にある豊かな暮らしを体験することができた。また、農家の皆さんにも話を聞いて、田舎で農家を営む大変さとともに生きがいを感じているという話も伺うことができたため、働きや生き方についても考えることができた。真室川町は自然が豊かな町で美しい町だ。私たちは田舎はつまらないという固定観念から田舎暮らしを懸念してきた。しかし、私たちの食べているものは田舎から得られるものばかりだ。私たちが日ごろからおいしい野菜を食べられるのは、田舎の豊かな自然と農家の皆さんのおかげであることをごきちんと理解したうえで、感謝しながら食べていかなければならない。

前期⑩ 子どもの自然体験活動支援講座 1



【目的】

子どもの自然体験活動支援に携わることで子どもの変容を感じ、同時に学び手としての自分自身をふりかえり、今後の生活につなぐきっかけにする。

【概要】

1 回目では、自然の家の様々なプログラムを実際に体験し、子どもの活動を支援する際のノウハウを身に着ける。

2 回目では、1 回目の経験を活かして主催事業「わんぱく探検隊」に班付きスタッフとして参加し、子どもたちの体験活動を支援する。

【授業計画】

訪問 1 回目 平成 30 年 6 月 9 日、10 日

- ・神室少年自然の家のプログラム体験
野外炊飯、テント泊、仲間作りゲーム、トレッキングなど

訪問 2 回目 平成 30 年 7 月 7 日、8 日

- ・主催事業「わんぱく探検隊①」活動支援
(小学校 3・4 年生対象事業)
班付きスタッフ、野外炊飯、テント泊、川遊び、トレッキングなど

【講師】

山形県神室少年自然の家職員

【担当者】

山形県神室少年自然の家職員

【受講定員】

12 名

【費用の目安】

訪問 1 回目 5,000 円程度 (食事代含む)

訪問 2 回目 5,000 円程度 (食事代含む)

 昨年度実施された同様のプログラム受講にかかった費用を参考にしています。
今年度の費用は、この金額から変わる可能性があります。

昨年度受講生の感想 人文社会科学部 A さん

今回、子供の成長の速さに驚いてばかりだった。子供が持つ素直さや好奇心、感受性の豊かさが理由だと私は考えている。最初は汚れることを嫌がっていた子が泥まみれになっても嫌からなくなったり、消極的だった子が川遊びの時「一緒に飛び込もう！」と声をかけてきたり、自然の中で活動する楽しさに気付いてもらえたと思う。さらに私も自然と触れ合う楽しさを再認識できた。

私たちの行動やアドバイスの仕方では子供たちの行動も変わることを強く感じた。きっかりの与え方で子供の持つ力をどこまで引き出せるのかも変わる。子供たちは自分を映す鏡という言葉そのものだと感じた。その面で子供たちに成長させてもらったことも多い。誰かを成長させることは自分の成長にもなるのではないだろうか。

大蔵村

前期Ⅱ 大蔵村の生活と伝統の継承



【目的・概要】

このプログラムは次の3つのことを目的とします。

- ①棚田百選に選ばれた四ヶ村の棚田について、生活の糧として棚田米の栽培・販売を通して地域を守る思いや考えを学ぶこと。
- ②伝統芸能である合海田植え踊りの伝承活動において、地域の人々の思いを想像し、地域の生活と伝統芸能との関わりを考えること。
- ③講師をしてくださる地域住民の方々との交流を通して、人の魅力・温かさを感じてもらうこと。

具体的には、次のようなことを行います。

- ・四ヶ村の棚田で田植え体験（四ヶ村で生活する意義と心構えについて）
- ・合海田植え踊り体験、見学（伝統芸能の伝承について）
- ・ほう葉めし作り体験、笹巻き作り体験（米の食文化）
- ・文化財めぐり、肘折温泉の学習（村全体の歴史・文化）

【授業計画】

訪問1回目 平成30年5月26日、27日

- ・四ヶ村の棚田で田植え体験（実習）
- ・合海田植え踊りの伝承活動について（実習）
- ・ほう葉めし作り体験（実習）
- ・文化財めぐり（実習）

訪問2回目 平成30年6月2日、3日

- ・合海田植え踊り見学（実習）
- ・笹巻き作り体験（実習）
- ・肘折温泉の学習（実習）

【講師】

地域住民の方々

【担当】

大蔵村教育委員会生涯学習係

【費用の目安】

訪問1回目 5,500円程度（食事代含む）

訪問2回目 5,500円程度（食事代含む）



昨年度実施された同様のプログラム受講にかかった費用を参考にしています。
今年度の費用は、この金額から変わる可能性があります。

昨年度受講生の感想 医学部 Hさん

四ヶ村の棚田では棚田の美しい景色に感動したが、棚田は毎年米を作って維持していくことが難しく、美しい景色を維持していくためには大変な努力が必要だということを知りた。美しいと感じるだけではいけないということが分かった。村の方のお話によると、今回訪れた棚田も以前はもっと山の上の方まで広がっており、今ある棚田もいつまで維持できるかわからないということだった。村の高齢化による人手不足が原因だと感じたが、この問題は日本の農村地帯全体に当てはまるような問題であり、若い人たちが考えていかなければならないものだ。これからの大学生活で考えていきたい問題の一つとなった。



【目的・概要】

1 回目は、年に 1 回開催される「鮭川歌舞伎定期公演」での活動となります。江戸時代から伝わる農村歌舞伎を通して、地域の伝統芸能について学びます。

2 回目では、自然保護活動を行うモデル地区である米で「湿原まつり」に参加します。絶滅危惧種が生息する米湿原の保全作業を体験することで生物多様性について学びます。

1 回目と 2 回目の活動から、地域とのつながりや自然・文化等をこれからの地域づくりにどう活かすかを考えます。

【授業計画】

訪問 1 回目 平成 30 年 6 月 9 日、10 日

地域の伝統芸能を学ぶ

- ・「鮭川歌舞伎」について
- ・定期公演の運営・準備
- ・鮭川歌舞伎見学（練習・本番）
- ・村文化財の見学

訪問 2 回目 平成 30 年 6 月 16 日、17 日

地域の自然環境を学ぶ

- ・環境保全体験
- ・「米湿原まつり」への参加
- ・村文化財の見学

【講師】

鮭川歌舞伎保存会 会長 佐藤 成一

鮭川歌舞伎保存会 座長 高橋 真一

NPO 法人ネイチャーアカデミーもがみ 代表理事 矢口 末吉

鮭川村自然保護委員会 会長 高橋 満

【担当】

鮭川村教育委員会

【受講定員】

7 名

【費用の目安】

訪問 1 回目 7,000 円程度（食事代含む）

訪問 2 回目 9,000 円程度（食事代含む）



昨年度実施された同様のプログラム受講にかかった費用を参考にしています。
今年度の費用は、この金額から変わる可能性があります。

昨年度受講生の感想 工学部 H さん

私は今までより発展したところの方が田舎の方より住みやすく魅力的だと考えていたが、今回フィールドワークで鮭川村に訪問してみて、鮭川村には自然の美しさや歴史、人と人の強いつながりなどのほかの地域にはなかなかみられないような魅力があることがわかった。私はずっと山形県に住んでいたが今回フィールドワークに行ってみて鮭川村について新しく知ったことが多かった。自分の身の回りのことが当たり前になってしまっていてそのまわりことに目がいかなくなっていたので、定期的にほかの地域に行ってみて広い視野を持つようにいきたい。

戸沢村

前期⑬ 戸沢村の超元気印！幸齢者集団の生き様に学ぶ



【目的・概要】

1 回目は、幸齢者のみなさんとメダカ池の環境整備をし、2 回目はほたる祭りと炭焼き等を行います。特にほたる祭りについては、企画運営を担っていただきます。これらのプログラムを通して、学生のみなさんには、コミュニケーション能力や企画力、プレゼン能力、協調性等を育む一助となればと思います。地域においては、この事業を実施する上で、地域のいろんな団体、人の協力や知恵が必要となることから、地域の活性化やコミュニティの再生が図られると思われます。

【授業計画】

訪問 1 回目 平成 30 年 5 月 26 日、27 日

- ・座学（地域の歴史、教育等）
- ・炭焼き窯づくり or メダカ池整備
- ・ほたる祭り企画会議

訪問 2 回目 平成 30 年 6 月 23 日、24 日

- ・笹巻きづくり
- ・ほたる祭り
- ・ツリーハウス修繕、ピザ作り
- ・わら細工

【講師】

北の妙倉郷大学 学長 菊池 清一
古口自治会 会長 寺内 恵一

【担当】

北の妙倉郷大学 事務局 佐藤 雄次

【受講定員】

15 名

【費用の目安】

訪問 1 回目 7, 000 円程度（食事代含む）

訪問 2 回目 7, 000 円程度（食事代含む）



昨年度実施された同様のプログラム受講にかかった費用を参考にしています。
今年度の費用は、この金額から変わる可能性があります。

昨年度受講生の感想 人文社会科学部 Hさん

フィールドワーク中の全ての活動が私にとって本当に学ぶことが多いものであった。参加前の戸沢村のイメージは、とても失礼なことだが、全国に多くある少子高齢化に困っている村の一つという程度であった。だが、実際に行ってみると私たちにいろいろなことを教えてくれた「幸齢者」の方々やその他助けていただいた村の方々には本当に親切だったし、充実した生活を送っているように思われた。私には高齢者はこどもに元気をもらって、こどもは高齢者に知恵をもらう、という言葉が印象的だった。幅広い世代の住民が助け合っているというのは私の地元にはなかったもので、素敵なことだと思った。フィールドワーク 4 日間の中で体験した池の草取りや石窯の整備、薪割り、わら細工は私にとって初めてのことでばかりで貴重な経験になった。



【目的・概要】

四方を山々に囲まれた角川地域は豊かな自然に恵まれ、山菜・キノコや林産物など山からの恵みが豊富です。この里地里山を守り、里山の資源を活用する活動に取り組む。里山のナラ枯れ防止にも資するナラの木を使った炭焼き・ナメコの植菌、杉林の枝打ち・干ばつ、木工細工、山菜採り・山菜料理づくりなどの活動を体験する。

【授業計画】

訪問1回目 平成30年5月19日、20日

- 1 日目は、地元産そば粉を材料にした手打ちそばづくりを体験。
- 午後は、里山自然観察と山菜採り（わらび等）を行う。
- 2 日目は、山菜を使った料理作りを行う。
- 午後はナラの原木にキノコの植菌を行う。

訪問2回目 平成30年6月23日、24日

- 1 日目は、山菜採り（みず等）とそれを材料にした料理作りを行う。
- 午後は杉林の除伐・間伐を行う。
- 2 日目は、午前中に炭焼き体験を行う。
- 午後から様々な木材を利用して木工細工を行う。

【講師】

田舎体験塾つのかわの里事務局スタッフ及び角川地区の講師

【担当】

田舎体験塾つのかわの里

【受講定員】

12名

【費用の目安】

訪問1回目 10,000円程度（食事代含む）

訪問2回目 10,000円程度（食事代含む）



※ 昨年度実施された同様のプログラム受講にかかった費用を参考にしています。
今年度の費用は、この金額から変わる可能性があります。

昨年度受講生の感想 農学部 Sさん

戸沢村では、炭焼きができる人が減少していたり、間伐が不十分のため、野生の動物が人の住む領域に踏み込んできてしまっていたりする。これらは全て、圧倒的な人手不足が原因だと言える。人口が減少している原因として、住人たちは「何も無いところだから。」と、口にするが、本当にそうだろうか。外から来た私には、都市部にないものか前っていると感じた。山の中で、まさに取り放題だった豊富な山菜。都市部では味わうことのできない、息を呑む程に雄大な自然。これらが地元の人にとっては当たり前のごとで、その良さに十分に気が付いていないと感じた。一掴み500円ほどで売買されるミスが、最高に新鮮な状態でいくらかでも食べられる。少し山の中に入ると、樹齢1200年の杉の木が迎えてくれる。このような角川の良さを、地元の住民は再確認するべきだろう。そしてその再確認した、「当たり前」を大々的にPRするべきだろう。

**【目的・概要】**

20年前から活動を始めた「角川太鼓の会」は、地域の歴史や文化を取り入れた創作曲をつくり、様々なところで演奏活動を行っています。和太鼓の魅力に触れて頂きます。

また当地域で古くから栽培されている伝承野菜エゴマ・からとり芋の栽培法を体験する。野菜の持つ栄養価・滋養効果や伝統料理に隠れた暮らしの文化を学びます。

【授業計画】**訪問1回目 平成30年6月9日、10日**

1日目、午前はそば打ち体験。午後は伝承野菜エゴマの種まき・からとり芋の定植を行う。

2日目は、太鼓の基礎練習・演奏曲の練習を行う。

訪問2回目 平成30年7月7日、8日

1日目、午前は伝統料理つくりを行う。午後はエゴマ苗の定植・野菜の管理作業を体験する。

2日目は、太鼓の演奏曲の練習・発表会を行う。

【講師】

田舎体験塾つのかの里事務局スタッフ及び角川地区の講師

【担当】

田舎体験塾つのかの里

【受講定員】

12名

【費用の目安】

訪問1回目 10,000円程度（食事代含む）

訪問2回目 10,000円程度（食事代含む）



※昨年度実施された同様のプログラム受講にかかった費用を参考にしています。
今年度の費用は、この金額から変わる可能性があります。

昨年度受講生の感想 医学部 Yさん

今回のフィールドワークを通して、農業の大変さを強く感じたが、それと同時に戸沢村に行かなければ知ることができなかった魅力も発見することができた。まずは、美味しい野菜。美味しい水と肥沃な土壌によって甘みの強い野菜が育っていた。次に、豊かな自然。虫や鳥、川のせせらぎや風の気持ちよさなど、パンフレットではわからないことを身をもって感じる事ができた。そして戸沢村の人々の温かさ。私たちが惣巻きの作り方をなかなか覚えられず、何度も質問してしまったが、そのたびに丁寧に教えてくださった。民宿ではおかみさんや旦那さんのおかげですぐに初めて会った他のお客さんともすぐに打ち解けて楽しい時を過ごすことができた。また、地域の方が私たちを指導してくださったスタッフに声をかけているところを見て、角川地域の人は一つの家族のように強い絆で結ばれているのだなと感じた。戸沢村の人々に会い、人との出会いを大切にしたいと強く感じた。

後期① 七所明神伝説を次世代に伝える方策を探る



【目的・概要】

七所明神は、第十五代天皇の皇子である大山守命皇子(おおやまのりのみこと)の体を七つに斬り、それぞれの部位が祀られているという、健やかなる体・康らかなる心を祈願する、由緒ある神社である。新庄市を中心に七ヶ所の七所明神があるが、その一つが新庄市宮内にあり、皇子の頭の部位が祀られている。

このような七所明神伝説に触れるとともに、地域活動である御祭燈祭りや伝統工芸の製作を行い、七所明神を次世代にどう引き継いでいくか、皆で知恵を出し合い方策を探る。

【授業計画】

訪問1回目 平成30年10月27日、28日

- 1日目
 - ・七所明神についての講話
 - ・七所明神巡り
- 2日目
 - ・宣判作業
 - ・芋煮作り
 - ・絵馬制作

訪問2回目 平成31年1月12日、13日

- 1日目
 - ・御祭燈祭準備
 - ・もちつき体験
 - ・御祭燈祭
- 2日目
 - ・御祭燈祭後片付け
 - ・伝統工芸品(はけこ)制作
 - ・七所明神の価値を考えるワークショップ
 - ・感想発表

【講師】

七所明神の環境を良くする会 代表 叶内 克和

【担当者】

新庄市教育委員会社会教育課

【受講定員】

10名

【費用の目安】

訪問1回目 4,000円程度(食事代含む)

訪問2回目 6,000円程度(食事代含む)

 昨年度実施された同様のプログラム受講にかかった費用を参考にしています。
今年度の費用は、この金額から変わる可能性があります。

昨年度受講生の感想 理学部 Kさん

私たちは一回目の活動を終えた時、人の少なさから、SNSなどのインターネット媒体の活用を促進していった七所明神のことを多くの人に知ってもらって神社にお参りに来てほしい、いわば集客のことしか考えていなかった。しかし二回目の活動を通して地域のひととの交流、環境をよくする会の人の話を聞いて一時的な集客ではなく継続的な地域への貢献する人を増やすことにあると考えた。そのためには、小さい頃からの七所明神との関わりを持っていく環境づくり。例えば学校の授業で七所明神の事について学ぶ場を設ける。チラシなどの広告を小中学生に作ってもらうなど。そうして成長して大人になっていっても七所明神に関わってくれる人を増やすことが大事だと私は考えた。

新庄市

後期② 新庄伝統の民俗文化を体験しよう～隠明寺風と昔語り～



【目的・概要】

自然豊かな新庄には、数多くの伝統文化が現代まで伝えられている。それらを保存・伝承している団体とともに活動を行うことで、地域の伝統文化への理解を深めることを目的とする。

1回目は山形を代表する風である『隠明寺風（おんみょうじたこ）』について、その歴史を学び、実際に風を制作する。

2回目は新庄・最上地域に伝わる『民話』について、講義、実習とおして学びまた、それぞれの伝承活動が抱える課題を見つけ出し、その解決策を探る。

【授業計画】

訪問1回目 平成30年11月10日、11日

- 1日目 ガイダンス
 - AM：講義「隠明寺風の歴史について」
 - PM：実習「隠明寺風制作（絵付け）」
 - 2日目 AM：講義「隠明寺風制作（組立て）」
 - PM：実習「風揚げ体験」（雨天時変更あり）
- グループディスカッション
「隠明寺風の課題と解決策を探る」

訪問2回目 平成30年11月17日、18日

- 1日目 ガイダンス
 - AM：講義「新庄・最上地域の民話伝承」
新庄の方言を学ぶ
 - PM：実習「新庄・最上の民話を聴く」
「自分のふるさとの民話語り」
- 2日目 AM：バスツアー「民話の舞台の地巡り」
 - PM：ワークショップ
「民話マップ製作」

【講師】

隠明寺風保存会 事務局長 佐々木 新一郎
新庄民話の会 会長 佐藤栄一 ほか

【担当】

新庄市教育委員会社会教育課

【受講定員】

10名

【費用の目安】

- 訪問1回目 3,500円程度＋食事代実費別途
- 訪問2回目 2,500円程度＋食事代実費別途

 昨年度実施された同様のプログラム受講にかかった費用を参考にしています。
今年度の費用は、この金額から変わる可能性があります。

昨年度受講生の感想 人文社会科学部 Tさん

新庄市で体験した隠明寺風と民話は、どちらも伝承していく若い世代が少くないということが課題とされている。今の時代は民俗文化に興味をもつ機会が失われており、若者が民俗文化に触れる機会も少なくなっていると感じた。私は実際に風作りと民話を体験してみて、とても楽しむことができ、地域の方々と暮らした。このようにもっと直接、文化に触れる機会を作ることが大切であると思う。

新庄市

後期③ 新庄市の市報を創ってみよう！



【目的・概要】

新庄市内で1番市民に届く媒体である「市報」を使い、山形大学生の視点で、新庄の魅力を掘り下げてもらいます。今回のテーマは「ラーメン」を予定しており、実際に新庄のラーメンを食べ、新庄のラーメンの魅力を取材し、その価値を市民のみなさんにどう伝えるかを企画・立案してもらいます。最終的には、実際の市報の紙面制作を担当し、発行します！！

【授業計画】

訪問1回目 平成30年11月10日、11日

- 1日目
 - ・オリエンテーション
 - ・市報についての講義
 - ・印刷現場見学
 - ・昼食（新庄のラーメン）
 - ・広報の企画立案
- 2日目
 - ・広報の企画立案
 - ・昼食（新庄のラーメン）
 - ・取材交渉

訪問2回目 平成30年12月8日、9日

- 1日目
 - ・紙面構成
 - ・取材（インタビュー、物撮りなど）
 - ・紙面制作
- 2日目
 - ・紙面制作
 - ・紙面校正
 - ・最終の振り返り

【講師】

新庄市総合政策課 広報・総合情報室

【担当者】

新庄市教育委員会社会教育課

【受講定員】

10名

【費用の目安】

訪問1回目 2,000円程度＋食事代実費別途

訪問2回目 2,000円程度＋食事代実費別途

⚠ 実際の費用は、この金額から変わる可能性があります。

※このプログラムは初めて実施されるプログラムです。

後期④ 山里の秋を体感しよう



【目的】

山間地の秋は実りの時を迎え、山は紅葉し、人々は収穫の喜びを感じており、秋を体感することができる

【概要】

フィルムによるカメラで秋の風景を撮影・感謝祭・なし団子祭り・ホームステイ・雪囲い体験・写真コンクール

【授業計画】

訪問1回目 平成30年10月27日、28日

- ・秋の風景を撮影
- ・餅つき体験
- ・祭りの企画
- ・ホームステイ

訪問2回目 平成30年12月8日、9日

- ・写真コンクール
- ・ホームステイ
- ・団子木飾り
- ・リースづくり

【講師】

須藤功、石井芳五郎、斎藤正昭、中野光雄、岸末吾、須藤幸一、岸浩樹、岸吉三郎、柿崎喜一、樋口勝也、小野花子、岸ミツ子

【担当者】

道草ぶんこう運営委員会、金山町教育委員会

【受講定員】

10名

【費用の目安】

訪問1回目 7,000円程度（食事代含む）

訪問2回目 7,000円程度（食事代含む）

！ 昨年度実施された同様のプログラム受講にかかった費用を参考にしています。今年度の費用は、この金額から変わる可能性があります。

昨年度受講生の感想 人文社会科学部 Nさん

「山間地の祭りを企画しよう」ということで、私は神輿を担ぎ、多くの住人が集まるものを勝手に想像していた。しかし、田茂沢地区の問題である超少子高齢化の影響で、祭りに参加出来ないような高齢者の方や子どもの減少で私が想像していた祭りの姿では正直なかった。しかしそんな中でも、私たちが出来る私たちのやり方で、お祭りに参加出来ないようなお宅に、自分たちでついた餅を配り歩くという能動的な活動も行った。そして今後は老若男女問わず集まれるようなものを企画しなければいけないと思った。

金山町

後期⑤ 森と人の共存を考えるⅡ～山間地の文化を探り地域振興へ～



【目的・概要】

遊学の森は、金山町有屋地内であり、森と人との共生をテーマに、地域活用資源の掘り起こしから地域振興へ・生物多様性から地域振興へ・地域の衣食住の伝承から地域振興への3本柱で地域貢献に取り組んでおりますが、地元住民が当たり前という認識であり、地域住民の醸成にうまくつながっておりません。そこで、学生の新鮮な感覚で地域を捉え宝物が集積されれば地域活性化の一助につながると考えております。

そこで、当会では、地域と連携をとりながら、学生の皆さんと交流する機会を設定し、新たな地域文化を創造していきたいと考えていますので、皆さんのお知恵と行動力に期待しています。

【授業計画】

訪問1回目 平成30年12月8日、9日

- ・講話「金山町の自然を知る」
- ・実習 荒廃した森林で鳥取り リースづくりを楽しむ
- ・実習 伝統芸能「柳原番楽」の見学

訪問2回目 平成31年1月12日、13日

- ・講話「金山町の歴史民俗」
- ・実習 里山の食文化「餅つき」など
- ・実習 クロスカントリースキー体験

【講師】

遊学の森案内人会 会長 星川 隆弘

【担当者】

遊学の森案内人会

【受講定員】

10名

【費用の目安】

訪問1回目 8,500円程度（食事代含む）

訪問2回目 8,500円程度（食事代含む）



昨年度実施された同様のプログラム受講にかかった費用を参考にしています。今年度の費用は、この金額から変わる可能性があります。

昨年度受講生の感想 医学部 Sさん

今回の活動を終えてひとつ感じたことがある。それは金山町の子供たちが、ふるさとである金山町を好きだということだ。今回、金山町の子供たちとの交流を何度か行ったが、番楽の時であってもスキー大会の時であっても、子供たちのそういった思いがこちらに強く伝わってきた。過疎化が進む町の活性化は容易なことではない。しかし、それを行う上で最も重要な核となるものは、その町が好きだという気持ちではないかと私は考える。金山町は過疎化が進んでいるが、子供たちはふるさとが好きだという気持ちをしっかりと持っている。その点については希望が持てるのではないかと感じた。

最上町

後期⑥ 最上町の人・自然・文化に触れよう②



【目的】

○北極・南極を世界で初めて単独横断に成功した世界の冒険家、大場満郎氏がコーディネートする町内小学生を対象とした体験活動を通して、地域の方々や小学生との交流により社会性や感受性を高める。
○地域で開催される行事や地域の方々との活動を通して、最上町を知ってもらう。

【概要】

○1 日目は、大場満郎氏がコーディネーターを務める放課後子ども教室にスタッフとして参加し、子どもたちとともに活動する。
○2 日目は、町内のイベントや体験活動などを通して、最上町への理解を深めてもらう。

【授業計画】

訪問1回目 平成30年10月27日、28日

- 1 日目 ・放課後子ども教室事業
- ・ワイルドエドベンチャースクールにスタッフとして参加
- ・スタッフとの懇談会

2 日目 ・最上町内でのイベントや体験活動等予定。

訪問2回目 平成30年11月24日、25日

- 1 日目 ・放課後子ども教室事業
- ・ワイルドエドベンチャースクールにスタッフとして参加
- 2 日目 ・最上町内でのイベントや体験活動等予定。

【講師】

放課後子ども教室事業ワイルドエドベンチャースクール
(コーディネーター大場満郎氏)
その他地域の方々

【担当者】

最上町教育委員会教育文化課社会教育係

【受講定員】

10名

【費用の目安】

訪問1回目 4,000円程度＋食事代実費別途

訪問2回目 5,500円程度＋食事代実費別途



※昨年度実施された同様のプログラム受講にかかった費用を参考にしています。
今年度の費用は、この金額から変わる可能性があります。

昨年度受講生の感想 人文社会科学部 Aさん

私は初めて最上町に行きました。最上町と聞いて最初に思い浮かんだのは最上川でした。しかし、事前学習で最上町を調べて行くにつれ、自然がとても豊かであること、古くから大木がたくさんあるので「巨木の里」として有名であること、第一次産業従事者が一番多いことなどが分かりました。その中で大場満郎さんのエドベンチャースクールに参加して、地域の子供たちやお年寄りと交流して外面的な最上町だけでなく、内面的にも知ることができました。

舟形町

後期⑦ 里地里山の再生Ⅱ



【講師】

会員及び地域住民

【担当者】

堀内ファーム事務局 大山 邦博

【受講定員】

10名

【費用の目安】

訪問1回目 7,000円程度（食事代含む）

訪問2回目 7,000円程度（食事代含む）



昨年度実施された同様のプログラム受講にかかった費用を参考にしています。
今年度の費用は、この金額から変わる可能性があります。

【目的・概要】

農村が抱える過疎化対策を地域自らが主体となって取り組む地域活性化策を習得することを目的とする。

荒廃した農地等の再生を共に活動することによって、受講者自らが考案する農村の再生策を提言としてまとめることを目標とする。

- ・地域学講座（堀内地域の将来ビジョン）
- ・生物多様性の環境保全活動
- ・食と農の体験活動

【授業計画】

訪問1回目 平成30年10月27日、28日

手倉森：シイタケ、ナメコの収穫活動

堀内地区：大根、白菜などの収穫活動

訪問2回目 平成30年11月17日、18日

舟形小学校：森の積木広場体験

堀内地区：大根、白菜などの収穫活動

昨年度受講生の感想 地域教育文化学部 Sさん

舟形町を初めて訪問して、舟形町は自然や食、愛に溢れている素敵な町だと強く思いました。特に食に関しては、たくさんの特産品があるため、他の地域にもっとPRすべきだと思います。こんなにたくさんの特産品があるのに、私のように舟形町をまだ知らない人がいるということももったいないと感じます。他県で舟形町の特産品を売ったりなどの取り組みをしていると聞きしたので、その活動をネットで紹介したりなど、より多くの方に舟形町の特産品を知ってもらい活動することが効果的だと考えます。そうして、舟形町の特産品の需要が増えてくると、少子高齢化の問題も解決の光が少し見えてくるのではないかと考えます。

後期⑧ 子どもの自然体験活動支援講座2



【目的】

子どもの自然体験活動支援に携わることで子どもの変容を感じ、同時に学び手としての自分自身をふりかえり、今後の生活につなぐきっかけにする。

【概要】

1 回目では、地域の人々とのかわわりを通して伝承文化に触れたり、主催事業「伝承文化ふれあいキャンプ」で子どもたちの活動を支援したりする。

2 回目では、主催事業「わんぱく探検隊」に班付きスタッフとして参加し、子どもたちの体験活動を支援する。

【授業計画】

訪問1 回目 平成30年12月8日、9日

「伝承文化ものづくり体験」

主催事業「伝承文化ふれあいキャンプ～世代交流編～」運営参加

班付きスタッフ、しめ飾り作り、老人クラブの方々と交流、館内調理など

訪問2 回目 平成31年1月19日、20日

主催事業「わんぱく探検隊」運営参加

小学校3・4年生児童のキャンプ活動支援

班付きスタッフ、館内調理、テント泊、雪遊びなど

【講師】

山形県神室少年自然の家職員

【担当者】

山形県神室少年自然の家職員

【受講定員】

12名

【費用の目安】

訪問1 回目 5,000円程度（食事代含む）

訪問2 回目 5,000円程度（食事代含む）



昨年度実施された同様のプログラム受講にかかった費用を参考にしています。
今年度の費用は、この金額から変わる可能性があります。

昨年度受講生の感想 農学部 Hさん

今回のフィールドワークでは、幅広い世代の方々と交流した。二回の活動を通して、人と関わることは、学ぶ機会なのだと感じた。老人会の方とお話していると、昔の生活の話や、知恵を学ぶことが出来た。子どもの親御さんとお話していると、子育てについてどのようなものなのか学ぶことが出来た。子どもたちと一緒に活動したことで、子どもたちの打ち解け方から、支援する側のことまで沢山学ぶことが出来た。今回学んだことは、これからとても役に立つと思うので、大切にしていきたい。

戸沢村

後期⑨ 里山保全とキノコ料理



【目的・概要】

四方を山々に囲まれた角川地域は里山からの恵みが豊富である。この里地里山を守り、里山の資源を活用する活動を行う。里山のナラ枯れ防止にも資する炭焼き、森林の管理作業、木工細工、キノコ採り、キノコ料理づくりなどの活動を体験する。

【授業計画】

訪問1回目 平成30年10月27日、28日

1日目、午前は地元産のそば粉を使ったそば打ち体験。午後は、炭焼き材の切り出し・木割り・運搬を行う。

2日目は、山菜を使った料理作りを行う。午後はナラの原木にキノコの植菌を行う。

訪問2回目 平成30年11月17日、18日

1日目、午前は杉林の除伐・間伐を行う。午後は杉林の枝打ちを行う。

2日目は、炭小屋づくり、午後は木工細工を行う。

【講師】

田舎体験塾つのかわの里事務局スタッフ及び角川地区の講師

【担当】

田舎体験塾つのかわの里

【受講定員】

12名

【費用の目安】

訪問1回目 10,000円程度（食事代含む）

訪問2回目 10,000円程度（食事代含む）



※ 昨年度実施された同様のプログラム受講にかかった費用を参考にしています。今年度の費用は、この金額から変わる可能性があります。

昨年度受講生の感想 人文社会科学部 Kさん

私は、前期のフィールドワークでも戸沢村を訪れたので今回のフィールドラッピングで4度目の訪問となった。前期と後期の訪問で私は、戸沢村の地域の方々がとても親切ということや、自然を生かした様々な観光資源があることを学んだ。そして、その資源は利用者によって無限に使い道があり生活する手段にも特産品にもなるということがわかった。そして、地域の方々と話すことでこの地域に今必要とされていることは何なのかということも考えることができた。しかし、まだ私が知らないことは多くあると思う。だから、私はもっと戸沢村を訪れ、どのようなことをすればより戸沢村の素晴らしさを知ってもらえるのか考えたい。1人の大学生としての私の力はとても小さいかも知れないが、それでもそんな私に何ができるのかということを考えて生活していきたい。



【目的・概要】

角川地域の学校教育で始まった和太鼓演奏が地域の保護者をも巻き込み、平成9年に「角川太鼓の会」が結成され活動を続けている。農山村の趣向を取り入れた演奏曲をつくり、イベントなどで好評を博しており、これらと太鼓の魅力を体験する。冬の里山暮らし体験は、農山村の冬の暮らしの一部を体験して頂き、今日に引き継がれている農山村の文化に触れていただく。また、角川地区の冬のイベント『角川雪回廊物語』で展示される「雪絵灯籠」の作成を行う。

【授業計画】

訪問1回目 平成30年12月8日、9日

- 1日目は、漬物づくり。雪回廊物語の企画書づくりを行う。
- 2日目は、角川太鼓演奏の披露・太鼓基礎練習・曲演奏練習を行う。

訪問2回目 平成31年1月12日、13日

- 1日目は、角川雪回廊物語の展示物作成を体験する。
- 2日目は、太鼓の曲演奏練習を行い、最後に太鼓演奏の発表を行う。

【講師】

田舎体験塾つのかの里事務局スタッフ及び角川地区の講師

【担当】

田舎体験塾つのかの里

【受講定員】

10名

【費用の目安】

訪問1回目 10,000円程度（食事代含む）

訪問2回目 10,000円程度（食事代含む）



※昨年度実施された同様のプログラム受講にかかった費用を参考にしています。
今年度の費用は、この金額から変わる可能性があります。

昨年度受講生の感想 地域教育文化学部 Yさん

実際に戸沢村に行ってみて、本当に人が少ないのだな、と驚きました。しかし、それ以上に印象に残っているのは住民の方の距離の近さや優しさです。二回目の講義ではもともとプログラムに組み込まれていなかった病送り（やんまい送り）を体験することができました。病送りは病氣にかからないようにみんなで驚人形にたくす、という戸沢村の伝統行事で、住民の方々は仕事を休んでもでも参加するそうです。この行事に参加できたのは地元の方の「若い人達にもぜひ参加してもらいたい。若い人達いるとみんな喜ぶから」という声からでした。そして「じゃあ参加しましょうか」とプログラムを変更できる柔軟さは、住民間の距離が近いからこそできた芸当なのだと思います。

編集・発行 平成 30 年 3 月

「共生の森もがみ」担当窓口

エリアキャンパスもがみ 大学事務局

山形大学小白川キャンパス事務部教務課教育企画担当

TEL : 023-628-4707

FAX : 023-628-4720

E-Mail : acmogami@jm.kj.yamagata-u.ac.jp